

本学 × 英国ケント大学 日英共同事業

日本の文化的パフォーマンスを体験



3年ぶりに有意義な研究交流の機会となった同プロジェクト

令和元年、シェイクスピアの演劇やヨーロッパ中世修道院の祈りなどのワークショップが英国で行われたが、新型コロナウイルスの影響による延期を経て、3年ぶりの開催となった。今回、祝詞奉書、茶道作法など多岐にわたる文化の紹介ができた。

国際研究交流の重要性を再認識

本学と英国ケント大学は令和元年から取り組んできた「パフォーマンス」を中心とする共同研究プロジェクトの完成に向け、10月23日から25日にかけてワークショップを開催した。同プロジェクトを中心として率いてきたクリストファー・メイヨーコミュニケーション学教授からの報告を掲載する。

初日の23日はケント大学研究者が祝詞を唱える「祝詞奏上」体験型ワークショップを行った。記念講堂での瓜田理子准教授による神宮式年遷宮と神楽秘曲の講話後、祭式教室にて用賀神社宮司の三宅勝正氏(専攻科29期生)が齋主を務め、神社拝詞の奏上及び玉串奉奠を体験し、三宅氏による人長舞を鑑賞した。次に、平石岳助教が『ヴェニスの人』を取り上げてワークショップを行った。一言でいえば、『Shakespeare』Antonioの胸肉をナイフで抉ろうとする場面ばかりが明治大正期に一幕物として演じられていたという内容だ。ケント大学の先生方との質疑を通じて、両国間の「Performance」をめぐる意見交換ができた。

- ワークショップ① 祝詞奏上
ワークショップ② (A) 天照大御神に捧げる無音の調べ: 神宮式年遷宮と神楽秘曲
ワークショップ③ 明治大正期における、シェイクスピア「ヴェニスの商人」の受容
ワークショップ④ 茶の湯
ワークショップ⑤ 神道古典の儀礼化について
ワークショップ⑥ 「御師」「御祓大麻(お札)」「神楽」の講話・資料熟覧
ワークショップ⑦ お札作り体験
見学と神宮参拝
特別展「生きる正倉院」
皇大神宮(内宮)・豊受大神宮(外宮)

また晴天に恵まれたこの日は、ケント大学研究者及び同行家族が内宮を参拝。神宮司庁広報室室長で神宮禰宜の石垣仁久氏のご案内を賜り、河野訓学長と三宅氏、瓜田准教授通訳が随行。神宮茶室の見学、神楽殿にて御神楽奉納後、御垣内参拝を肅々と行った。古殿地にてご正宮を拝した後、荒祭宮を参拝して、宇治橋を後にした。

25日は神宮徴古館・神宮美術館・せんぐう館において開催中の特別展「生きる正倉院」を観覧した。天平時代の正倉院宝物の復元は、当時の工芸技術を伝える上で重要な意味を持っている。そして、正倉院宝物(複製品)と神宮の御装束・神宝とが一緒に展示されていることによつて、式年

体験・体感していただいた。24日、浦野綾子助教、小林郁助教と新田恵三助手による神道・信仰に関するワークショップが行われた。新田助手の講義では神道古典の儀礼化について触れ、吉田神道の儀礼実践などを行った。小林助教の講義では伊勢御師・御祓大麻・神楽に着目し、人々の伊勢信仰について考えた。その後、実際の版本からお札を刷る「お札作り体験」を行った。参加した博物館学芸員課程を履修する神道学科の学生は、英国から遙々海を越えて、私たちが大学で学んでいる神道について研究しに来てくれたことが嬉しい」と語った。



右/茶を振る舞う学生
左/「お札作り体験」では学生が作り方を指導

以上、関係各位のご協力により、ケント大学の皆様にも多くの日本文化を紹介することができた。一方「パフォーマンス」をテーマとする研究発表を求められた本学教員側も、大きな刺激を得ることができたと思う。コロナ禍を経て、このような国際研究交流の重要性を再認識する機会があった。ご協力いただいた関係各位に改めて謝意を表したい。

英国への派遣研究の報告
皇學館大学 現代日本社会学部
文化発信コース(伝統文化)准教授
岩崎正彌



ウエストミンスター宮殿(英国国会議事堂)にて

今後も、私はこの英国留学から得た発見を学生たちに伝えつつ、日本の伝統文化教育の再構築を通じて、日本人として一層に共に世界の繁栄と平和に貢献したいと存じます。

令和3年(2021)8月27日より令和4年(2022)8月26日まで、私はロンドン大学・東洋アフリカ研究学院(SOAS)の日本文化研究所(JRC)さまから客員研究員(Visiting scholar)としての招聘をいただき、また本法人から派遣研究員制度の運用を賜り、「英国の伝統文化と日本の伝統文化の研究」を主題として、1年間の英国留学をさせていただきました。関係各位の皆さまに、心より感謝を申し上げます。

国際都市ロンドンでは半数近くは移民系の方々でしたので、中南米、アフリカ、中東、インド、アジアなど、様々な地域・民族・宗教を背景とされた方々と語り合い、世界中の人々が何を考え、何を求めているのかを、感じ取ることができるようになりました。また、英国で日本の剣道、居合道、杖道、合気道、弓道などを指導していらっしゃる英国人師範の皆さまの道場を取材いたしました。師範と弟子の皆さまが、より古風で本格的な日本の武士道精神を体得せんと努めていらっしゃる真摯な姿勢に感銘を受けました。



ウエールズのカーディフの合気道「Sally道場」にて

三重の魅力を国内外に発信 みえグローバル学生大使



大使として積極的に活動したいと話す小川さん(左)と紀平さん

伊勢志摩サミットやジュニアサミットの開催を契機に世界へ目を向ける機運が高まっていることを受け、国際的な活動に継続的に取り組む若者を応援しようと、三重県が実施している「みえグローバル学生大使」。同大使に小川里奈さん(コミ3)と紀平恵梨子さん(教育3)が任命され、各地のイベントで活躍している。

もともと人と話すことが好きな上、英語の教師をめざしており、国際交流や国際貢献に興味があったと話す小川さん。1年生の頃から週1回のペースで学内のグローバル環境セミナーに通い、「グローバル環境セミナー」といった県主催の催しにも積極的に関わってきた。8月1日には同大使として「CIR(国際交流員)との交流会in志摩市」に参加。「伊勢志摩サミット記念館サミール」への訪問や賢島エスパールニヤクルズを体験し三重の良さを改めて実感したことから、「灯台下暗しとの言葉があるように、地元民や若者が地域の魅力に気付いていないのではないか。三重の素晴らしさを県民や海外の人に発信していければ」と抱負を語った。紀平さんは今年2月に開催されたSDGsの17の目標について学生同士で話し合う「太平洋しょ国の学生とのオンライン交流会」に出席したことがきっかけ。この交流会で日本とは違う環境問題に取り組んでいる現状や多様な考え方に触れ視野が広がった経験から同大使に申し込んだ。英語で発言する環境にあえて身を置くことで良い意味で肩の力が抜け、「以前は失礼な言い方ではないかなどいろいろ考えてしまい英語を話す機会を避けていたが、今はそれ以上に文化や価値観が違う外国の方々と交流が楽しい」と話す。大使の活動を通して「私たち世代の人に三重を起点に国際的な活動に関わる意識を育みたい」と意欲を見せた。同大使の任期は卒業するまで。今後の活躍に期待したい。

日本・世界・未来を繋ぐ 学生大使が活躍

英語教育の改善に一役 Mie-英語授業PR大使



Mie-英語授業PR大使として現場を体験する山本さん



学生の視点での発信をめざす西野さん(左)と山本さん

三重県教育委員会の「三重県英語教育改善プラン」に係る取組みである「Mie-英語授業PR大使」に山本英純さん(コミ3)と西野晋弥さん(教育4)が任命された。Mie-英語授業PR大使は小中高の現職教員と教員をめざす大学生で構成されており、教員研修の受講や公開授業の参観のほか、効果的な研修や先進的な授業の実践の記事をまとめ、県内外に発信する。

山本さんは8月22日に三重県総合教育センターで開催された「小学校英語Small Talk研修」(講師/文学部コミュニケーション学科川村一代准教授)を現職教員とともに受講した。Small Talkとは英語で対話を継続する力をつけるため、小中学校を通じて行われている。研修後、山本さんは「英語教育におけるSmall Talkの目的や意義、小中学校での学習内容の繋がりが分かった。教員の方と意見交換をし、実際の教育現場でSmall Talkがどのように行われているかについても知ることができた。今回の研修で学んだことを教育実習や教師になって英語を教える際に生かしたい」と語った。なお山本君の研修報告の記事は、三重県総合教育センターのインスタグラム(mekenshustia)に掲載されている。

ふたりは三重県教育委員会が主催する桑名市立星見ヶ丘小学校(11月22日)、志摩市立志摩中学校(令和5年1月27日)〔両方とも助言者は川村准教授〕で開催される公開授業に参加し、その内容を発信する予定である。

西野さんは「新学習指導要領に則った英語の授業を参観し、自分が実際に教えるときの参考にしたい」と公開授業参観を楽しみにしている。

カナダ・ヨーク大学 夏期英語研修を実施

8月6日から同月25日まで約3週間にわたり、カナダ・ヨーク大学で夏期英語研修が行われた。今回はコロナ禍で

従来なかった入国手続き等が増えたこともあり、コミュニケーション学科の教員が同行。教員の帰国後も国際交流担当の職員と常に連絡がとれる体制を整えたため、学生たちは安心して留学生生活を満喫したようだ。



メジャーリーグ観戦では現地ならではのスタジアムの盛り上がりも体験

サマーイマージョンプログラム

	月	火	水	木	金	土	日
Week 1	8月8日	8月9日	8月10日	8月11日	8月12日	8月13日	8月14日
9:00-11:00	ウェルカムレセプション	英語研修	英語研修	英語研修	英語研修	休日	ナイアガラ観光
11:15-12:15	プレースメントテスト	発音クリニック	発音クリニック	発音クリニック	発音クリニック		
12:15-13:30	ランチ						
13:30-16:00	英語研修	英語研修	タワートリップ	ワークショップ	スポーツ観戦		
Week 2	8月15日	8月16日	8月17日	8月18日	8月19日	8月20日	8月21日
9:00-11:00	英語研修	英語研修	英語研修	英語研修	英語研修	ワンダーランド(遊園地)	休日
11:15-12:15	発音クリニック	発音クリニック	発音クリニック	発音クリニック	発音クリニック		
12:15-13:30	ランチ						
13:30-16:00	トロント鳥ツアー	ワークショップ	ワークショップ	ワークショップ	キャンパスイベント		
Week 3	8月22日	8月23日	8月24日	帰国			
9:00-11:00	英語研修	英語研修					
11:15-12:15	発音クリニック	発音クリニック					
12:15-13:30	ランチ						
13:30-16:00	ワークショップ	フェアウェルセレモニー					



カナダ有数の規模を誇るヨーク大学

に話すのは加藤凛さん(コミ3)。「英語力に自信がなかったが、現地で自分の言葉が通じ、とつさに英語が口から出たときは成長を感じた」と充実したキャンパスライフを振り返った。参加者10名はリスニングやスピーキング等、個々のレベルに応じた授業のほか、現役のヨーク大学生との対話、ホスト宅での滞在、観光、多彩な課外活動を通じて異文化交流を図った。



気候、景色が素晴らしいと伊勢市を気に入った様子のノミノエさん

フランス人留学生・ノミノエさんが1か月間「皇學館生」に

フランス人留学生のノミノエ(Nominoe)さんが10月31日から11月25日までの約1か月間、「皇學館高校生」として本校に通うことになった。母国フランスで2年間日本語を学んでいるノミノエさんは、日本文化への興味からご家族が英会話教室を開いている幸田萌さん(2年7組)宅にホームステイしており、その縁で来校した。ノミノエさんはタブレットを活用しながらすべての授業に参加。本校の印象については「みなさん、とても親切で素晴らしい雰囲気。日本人は感情を示さないと聞いていたが、みんな個性豊かで社交的」と話し、楽しい学校生活を過ごしている。